日曜 AM 9:00～9:30（フジテレビ系列）放送

ゲゲゲの鬼太郎（きたろう）

第96話

「妖怪王・ぬらりひょん」


フジテレビ

制作　読売広告社


東　映

企画	原田冬彦（フジテレビ） 木村京太郎（読売広告社）
プロデューサー	蛭田成一
製作担当	岡田将介
原作	水木しげる （コミックボンボン テレビマガジン たのしい幼稚園 おともだち 連載） （講談社）
シリーズディレクター	西尾大介
脚本	矢島大輔
演出	明比正行
音楽	和田薫
キャラクターデザイン	荒木伸吾
総作画監督	姫野美智
美術デザイン	浦田又治

作画監督	美術	原画	仕上	撮影	編集
					片桐公一
録音	**音響効果**	**選曲**	**記録**	**製作進行**	**演出助手**
今関種吉	今野康之	西川耕祐	小川真美子	坂本憲生知	

【オープニング】

ゲゲゲの鬼太郎

作詞／水 木 し げ る
作曲／い ず み た く
唄・編曲／憂　歌　団
（wea japan）

ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
朝(あさ)は寝床(ねどこ)で　グーグーグー
たのしいな　たのしいな
おばけにゃ　学校(がっこう)もしけんも
なんにもない
ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
みんなで歌(うた)おう　ゲゲゲのゲー

ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
昼(ひる)はのんびり　お散歩(さんぽ)だ
たのしいな　たのしいな
おばけにゃ　会社(かいしゃ)も仕事(しごと)も
なんにもない
ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
みんなで歌(うた)おう　ゲゲゲのゲー

ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
夜(よる)は墓場(はかば)で　運動会(うんどうかい)
たのしいな　たのしいな
おばけは　死(し)なない　病気(びょうき)も
なんにもない
ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
みんなで歌(うた)おう　ゲゲゲのゲー

【エンディング】

イヤンなっちゃう節

作詞／森　雪之丞
作曲／岡本　朗
編曲／憂歌団 with HAKABA'S
唄／憂歌団
（wea japan）

★ イヤンなっちゃうオバケ　丑三つ時も
街はネオンが　まぶしくて
不良ぶってもアタシ　恥ずかしかり屋
顔が見えると　おどかせない

遊園地で　バイトする
妖怪に　愛をちょうだい
カネがなきゃ　夢もない
この街に　暮らすオバケもつらい

ビックラこいた！　墓場の横に
カラオケボックス　建っちゃった
ビックラこいた！　騒がしすぎて
オバケにゃホント　住みにくい時代さ

★★ イヤンなっちゃうオバケ　人間達が
機械みたいに　歩いてる
困っちゃったよアタシ　憂鬱な顔の
人はやっぱり　おどかせない

空は青く　水清く
妖怪は　怖くなくちゃ
昔から　続いてる
この星の　バランスが崩れちゃう

ビックラこいた！　コギャルの群が
アタシをけとばし　行っちゃった
ビックラこいた！　この世の中は
オバケにだって　怖いモノばかりさ

ビックラこいた！　鎮守の森が
雨に打たれたら　死んじゃった
ビックラこいた！　この世の中は
オバケにだって　怖いモノばかりさ

登場キャラクター

役名	摘要	声の出演者
鬼太郎		松岡洋子
目玉の親父		田の中勇
砂かけ婆		山本圭子
子泣き爺		塩屋浩三
猫娘		西村ちなみ
一反木綿		龍田直樹
ねずみ男		千葉繁
◯		
ぬらりひょん		
朱の盆		
がしゃ髑髏		

ダイダラボッチ		
やまたのおろち		
見上げ入道		
ベアード		
ヨナルテパズトーリ		
ポルターガイスト		
ウーストレル		
○		
ニュースキャスター		

1

どこかの山奥の洞窟

漆黒の闇に、200歳くらいの老婆の姿がある。髪に隠れて顔が見えない。

一瞬の閃光に浮かび上がるぬらりひょんの顔。いつになく険しい。

老　婆「妖怪島を復活させたいじゃと……」

再び閃光に浮かぶぬらりの顔。

老　婆「お主の妖力ごときでは無理じゃぞえ」

ぬらり「このワシにその力をよこせ……」

老　婆「フォッフォッ、未だかつてその試練に耐えた者はおらんぞえ」

再び閃光に浮かぶぬらりの顔。

老　婆「その痛みは、針の山よりも恐ろしいぞえ。良いか……」

再び閃光に浮かぶぬらりの顔。

老　婆「その苦しみは灼熱の地獄の炎に焼かれるより深いぞえ。良いか……」

ぬらり「くどい……覚悟は出来ておる」

老婆すっくとなる。

老　婆「邪悪なる土の者よ。恐れる山の怨霊よ。この者に集まりその力を示し賜え

！」

老婆の周りがメラメラと妖気立ち、ぬらりひょんに目指し襲いかかる。

ぬらり「グワ――ッ！」

ぬらりの顔がメラメラと燃えだし、骸骨がむき出しになる。

ぬらり「グワ――ッ！」

どろどろと溶けていくぬらり。

ぬらり「グワ――ッ！」

2

暗黒たれ込める山奥

石で封印されたような洞窟の前に朱の盆。

閃光が走り、地面を突き破る。

朱の盆「グワワワワ……」

閃光の中から、朱の盆より大きいぬらり（以下妖怪王）が妖気メラメラで出現。

仕込み杖もパワーアップ。

朱の盆「ぬらりひょんさまぁ……」

妖怪王「朱の盆。ぬらりひょんは死んだ。ワシは、今日から妖怪王として生まれ変わり総てを支配する。フフフ……ワハハハ！」

3　サブタイトル【妖怪大戦・その1】

4　ゲゲゲの森

妖怪バスが止まる。鬼太郎とねずみ男、猫娘が降りてくる。

ねずみ男「しっかし、妖怪バスはすげーな。あの世でも何処でも一飛びだぜよ」
鬼太郎「でも、遠くまで行くとさすがに疲れるよ」
猫　娘「そうよ、妖怪バスは、運転する者の妖気を吸い取って走るんですもの」
ねずみ男「今度は、俺が運転するかな」
猫　娘「なに言ってんの、あんたの妖気じゃ。ノロノロよ。亀より遅いわよ」
ねずみ男「なんだよ。人のこと言えるのか」
猫　娘「何よ！　やる気!?」

などと言いながら家へ向かう3人。

5

鬼太郎の家

家には、目玉、砂かけ、子泣き。
砂かけがお茶を入れている。
そこに、鬼太郎たち帰ってくる。

鬼太郎「ただいま！」
その前を、黒猫がよぎる。
ねずみ男「ぎょえーっ、黒猫だ！　縁起悪い」
ねずみ男、鬼太郎の陰に隠れる。
その瞬間、鬼太郎の下駄の鼻緒が切れる。
鬼太郎「鼻緒が！」
びっくりする目玉の親父。
目　玉「なんじゃと！　ちゃんちゃんこと同じ先祖の霊毛で編んだ（？）鼻緒が！」
続いて砂かけが、湯飲みを持って飛び上がる。震える声で、
砂かけ「茶柱が立っておる！」
子泣き「茶柱が立つのは、妖怪にとって最も縁起の悪いこと！」
深刻な顔の、目玉たち。

目　玉「これはきっと、とんでもないことが起こる前触れじゃぞ」

6　札幌・大通り公園

○テロップ【札幌】

のどか。焼きトウキビを食べながら歩く人もチラホラ。

突然大きな地鳴りと共に、地面が裂ける。

がしゃ髑髏が裂け目から現れる。

逃げまどう人々。

電波塔を壊し、ＮＨＫを壊し地面を掘る。

7　鬼太郎の家

鬼太郎が鼻緒を直していると、そこに一反木綿が飛び込んでくる。

一反木綿「鬼太郎どん！　大変でごわす。北海道で、がしゃ髑髏が大暴れしている でごわす」

鬼太郎「なんだって！」

目　玉「がしゃ髑髏?!」

一反木綿に乗り込む鬼太郎と目玉。

鬼太郎「一反木綿、頼む！」

砂かけ「鬼太郎、気を付けてな」

鬼太郎「はい」

飛び立つ一反木綿。

8

お台場・CX屋上

妖怪王と朱の盆。妖怪王、手に水晶玉。

○テロップ【東京】

妖怪王「見えるぞ、見えるぞ。がしゃ髑髏、早く探し出すんだ」

水晶玉に札幌の様子が浮かんでいる。

朱の盆「探せって何を探しているんですかぁ、ぬらりひょんさまぁ……」

妖怪王「朱の盆！　ぬらりひょんではない。妖怪王と呼べ。がしゃ髑髏は封印を解く鍵となる鏡を探しているんだ」

朱の盆「何の封印を解く鏡ですか？　ぬらりひょんさまぁ」

妖怪王「朱の盆！　ワシは妖怪王だ！　いいか、これをみてみろ」

妖怪王、手を広げると、そこに銅鏡の４分の１のかけらが浮かび上がる。

妖怪王「この鏡をあと３つ集めれば……、妖怪島が出現するのじゃ。未だかつて誰も成し遂げたことのない未知の世界だ」

（妖怪王のイメージ）

――４つの鏡のかけらが合体する。

――妖気を放つ鏡。

――その向こうに出現し出す妖怪島。

朱の盆「残りの３つは何処にあるんです？」

妖怪王「日本各地で、ワシに操られた妖怪どもが探しているわ。ワッハッハッハ！」

9　札幌・大通り公園

駆けつける一反木綿。地面は破壊。

鬼太郎「父さん！　あれは……」

目　玉「あれはまさしく、がしゃ髑髏！　しかし、なぜあいつが暴れているんじゃ」

・鬼太郎に気づくがしゃ髑髏。鬼太郎に手を伸ばして攻撃してくる。

10	
穴の中	鬼太郎「何をしている！　がしゃ髑髏！」 がしゃ髑髏は歯をカタカタさせて攻撃。一反木綿ヒラリとかわし、鬼太郎ムッ！　となる。妖気アンテナピン！ 鬼太郎「とうさん。変です。がしゃ髑髏の妖気に混じって、別の妖気があります」 目　玉「うーむ、もしかすると、がしゃ髑髏を操っている奴がおるのかもしれんぞ」 がしゃ髑髏、今度は鬼太郎たちを気にせず、地面を掘り出す。 倒れるビル。まきあがる白煙。 一反木綿、その上空にやってくる。 鬼太郎「とうさん。がしゃ髑髏の奴、何かを探しているようですが……」 目　玉「うーむ」 がしゃ髑髏の足下の大きな穴に妖気と動く小さな影が動く……。 それに気づく一反木綿。 一反木綿「鬼太郎どん。あれ！」 鬼太郎「一反木綿、近寄ってみてくれ」 一反木綿「あいよっ」

ヨナルデパズトーリが妖気を放っている。鬼太郎を見上げ、

ヨナル「ケケケケケッケケケ」

○テロップ【ヨナルデパズトーリ（メキシコ）】

11 上空

鬼太郎「父さん、あれは何者です」

目　玉「わからん。日本の妖怪であんな奴はおらんぞ」

がしゃ髑髏の肋骨の間をすり抜け降下する一反木綿。がしゃ髑髏の手が迫る。

一反木綿「アワワワワワ……鬼太郎どん！」

鬼太郎「一反木綿！　穴の中に向かって急げ！」

12 穴の中

ヨナルデパズトーリの手に、なにやら呪文のかかれた4分の1の銅鏡が、

浮かび上がってくる。

ヨナル「ケケケケケッケケケ」

ヨナル、鬼太郎を見上げる。

13

穴上空

目玉「鬼太郎！　あやつを早く取り押さえるのじゃ！」

鬼太郎「はい！」

一反木綿「任せるでごわす」

14

穴の中

鬼太郎たちが迫る。しかし……。

ヨナル「ケケケケケッケケケ」

ヨナルデパズトーリとがしゃ髑髏は不気味な笑い声と共にかき消える。

穴に突っ込む一反木綿。急ブレーキ！

鬼太郎「なにっ!?」

一反木綿「何処に行ったでごわす」
あたりを見渡す鬼太郎。
鬼太郎「父さん、妖気も消えています」
一反木綿「何処に行ったでごわす」
目　玉「……」
一反木綿は瓦礫の山となった大通り公園の上を旋回する。

15

鹿児島・桜島

○テロップ【桜島】
突然、ダイダラボッチが海から現れる。
逃げる漁船。
ダイダラボッチが桜島に上陸してくる。
桜島は噴煙を上げ始める。ものともせず噴煙に踏み出すダイダラボッチ。
逃げまどう人々。中には１１０番をする人もいる。
市　民「たっ、大変です。化け物が！　うわぁ」
ダイダラボッチの肩には、不気味に笑うウーストレルの姿が……。

○テロップ【ウーストレル（ロシア）】

16

大阪・道頓堀

○テロップ【道頓堀】

人・人・人・人……。

見上げ入道が出現。カニを壊し、フグを壊し町を破壊しまくる。

恐怖におののく人々。

見上げ入道、通天閣方向に突き進む。

見上げ入道の頭の上には、ポルターガイストが張り付いている。

○テロップ【ポルターガイスト（ヨーロッパ）】

その様子をカラスが見ている。

カラス「カア」

ポルターガイストがカラスをギロリと睨む。びっくりして飛び去るカラス。

17

ゲゲゲの森

カラスがあわてて飛んでくる。

18 鬼太郎の家

砂かけ、子泣き、猫娘、ねずみ男。

そこにカラス。

猫　娘「何だって！　大阪に巨大な妖怪が?!」

続いて別のカラスも飛び込んでくる。

ねずみ男「なにぃ?!九州にも！」

砂かけ「こんな時に鬼太郎は北海道だし」

子泣き「どうする。砂かけの……」

砂かけ「うーむ」

猫　娘「私たちが行くのよ！　鬼太郎が頑張っているんですもの、ここは私たちが！　ねえおばば」

砂かけ「そうじゃな……」

ねずみ男「だけどぉ、そんな遠くまでどうやって行くんだよ……?」

猫娘ムフフフの目つき。

猫　娘「あんた、たしか妖怪バスを運転したいって言ってたわよね……」

ねずみ男「じょ、冗談じゃねえよ。やだよ。だいいち、おれは正義の妖怪じゃねえもん。おめえ等が運転すりゃいいじゃねえか」

猫　娘「あんた！　レディに運転させる気!?」

ねずみ男、子泣きを見る。

子泣き「わしらは年寄りじゃ」

頷く砂かけ。

猫　娘「さあ！　行くわよ！」

ねずみ男を押し出して出ていく、4人。

19　ゲゲゲの森

のったりと走り出す妖怪バス。

運転手はねずみ男、車掌は猫娘。

20　お台場・CX屋上

妖怪王と朱の盆。水晶玉には鬼太郎の姿が浮かび上がっている。

妖怪王「来る……。鬼太郎めが……」

そこに、何処からともなく声（ベアード）

声（ベアード）「妖怪王、本当に大丈夫なんだろうな……鬼太郎に勝てるんだろうな」

妖怪王。声の方向を睨み、

妖怪王「黙っていろ……。貴様は俺の言うことを聞いていればいいのだ。それより、九州と大阪は大丈夫なんだろうな……。封印を解く鏡をすべて集めなければ妖怪島を呼び起こすことはできないのだぞ」

声（ベアード）「分かっている。妙な邪魔が入りそうだが、どうせ雑魚だ」

21 大阪・通天閣

見上げ入道が通天閣を引き抜いて、地面を掘っている。

そこに、ぬたくらとワープアウト（妖怪ハイウェイ経由）してくる妖怪バス。

22

妖怪バス内

運転手はねずみ男。助手的には猫娘。

猫　娘「まったく、あんたの妖気は本当に最低レベルね！」

ねずみ男「しょうがねえだろう。俺は人間と妖怪の間に生まれた半妖怪なんだからよ。着いただけでもめっけもんだぜ」

猫　娘「都合のいいときだけ半妖怪になるんじゃないの！　普段は大妖怪だとか言って、人間を騙しているくせに……」

子泣き「これ、二人とも！　前を見てみろ」

目の前に見上げ入道。振り向く猫娘。

猫　娘「なに?!」

砂かけ「見上げ入道じゃ」

ねずみ男「ぐわああっ、早く逃げようぜ」

見上げ入道、通天閣を持ち上げて天王寺方向に投げようとする。

猫　娘「大変、あんなものを投げたら、大事故になるわ。町はめちゃくちゃよ！」

砂かけ「何とか止めねば！」

ねずみ男「止めるったってよう……なあ」
　猫娘、見上げ入道をにらみつけて、
猫　娘「突撃よ！　妖怪バスで！　かしなさいよ」
　ハンドルを取り上げる猫娘。
　スピードを上げる妖怪バス。

23
通天閣跡の穴の中
　見上げ入道の足下、ポルターガイストが妖気を放っている。封印の鏡のかけらがポルターガイストの手に実体化してくる。
ポルタ「クヒヒヒヒヒ」

24
妖怪バスの中
猫　娘「そーれ、突っ込むわよ!!」
　抱き合って身構える砂かけと子泣き。
　十字を切ったり、手を合わせたり、拝んだりのねずみ男。

25 通天閣跡地

見上げ入道に突っ込んでくる妖怪バス。
ポルターガイストが、封印を抱えて消える。続いて衝突の瞬間、消え始める見上げ入道。

26 バス内

目の前の見上げ入道は消える。唖然とする4人。（バスは宙を飛んでいる）
みんな???マーク。
次の瞬間正面から穴に落っこちるバス。
当然、みんなガッツ――――ン！
猫娘のお尻にねずみ男の顔。
猫　娘「ちょっと！」
バリバリバリバリ。

×

×（C・M）×

×

27　東京上空・夕方

飛ぶ一反木綿。

鬼太郎「父さん。何が起こっているんですか」

目　玉「ワシにも全くわからん。……何かが起ころうとしているのは間違いない……」

一反木綿「親父どん。がしゃ髑髏と一緒にいた奴は何者でごわす……」

目　玉「もしかするとあれは、西洋妖怪じゃ」

一反木綿「西洋妖怪?」

鬼太郎「それじゃあ、あの西洋妖怪が日本の妖怪を操っていると?」

目　玉「いや、もっと悪い奴が潜んでいそうな気がする……」

鬼太郎「もっと悪い奴……」

28 ＣＸ屋上

29 ニューススタジオ

ニュース放送中。妖怪事件のニュース。

キャスター「……北海道に続いて、鹿児島県桜島、大阪の道頓堀と巨大な妖怪が出現し都市は大混乱を……」

30 お台場上空・そろそろ暗くなっている

鬼太郎たちお台場上空までやってくる。

巨大な妖気を感じてアンテナがピン！

鬼太郎「父さん、ものすごい妖気です！」

一反木綿「鬼太郎どんあれ！」

鬼太郎「なにっ!?」

妖怪王、ＣＸの上で妖気メラメラ。

鬼太郎「誰だあれは……」

31　ＣＸ屋上

妖怪王から鬼太郎が見える。妖怪王、ニヤリとし、いきなり仕込み杖で居合い。

妖怪王「はあっ！」

妖怪王の剣から妖気の波がカマイタチのように発せられる。

32　お台場上空

一瞬にして迫ってくる妖気の波。

一反木綿、かろうじてかわす。

一反木綿「うわあっ」

体勢を立て直し、ＣＸに飛び込んでいく。

鬼太郎「だれだ！　何をする！」

33　ＣＸ屋上

妖怪王、抑えた声で……、

妖怪王「鬼太郎め……。ワシを忘れたか」

鬼太郎「その声はぬらりひょん！　どうしたんだ、その姿は」

妖怪王「妖怪王だ……。ワシは妖怪王になったのだ。ウハハハハハ！」

34　上空

鬼太郎「妖怪王……？　ぬらりひょん、何を企んでいるんだ」

35　CX屋上

妖怪王「……フフフフ」

妖怪王、いきなり戦闘態勢。

妖怪王「鬼太郎、貴様を倒してこの世に君臨するためになぁっ！」

妖怪王の足下から地鳴りが始まり、おろちの頭が盛り上がってくる。

（※74話の設定で、おろちのうちの一つのみが金眼であとは赤い眼で

す）。

妖怪王「ハッハッハッハッ！」

36 CXニューススタジオ

原稿を読んでいるその後ろの窓に、おろちの顔がニューッ！

キャスター「妖怪は突然現れて、そして……」

後ろを振り返るキャスター。

キャスター「キャーッ！」

失神。

37 CX上空

妖怪王を頭に乗せ、おろちが首を持ち上げてくる。（金目）。

鬼太郎「やまたのおろち！」

目　玉「なんと、やつは封印したはずじゃ！」

勝ち誇る妖怪王。

妖怪王「グッハッハッハ！　驚け……鬼太郎」
一反木綿「どうなっているでごわす？」
妖怪王「フフフ……。行くぞ鬼太郎！」
おろちの首が更に2つ増え、妖怪王の首と合わせて迫ってくる。炎を吐く妖怪王のおろち。かろうじて避ける一反木綿。
妖怪王「無駄だ。無駄だ！　ハハハ……そーれ！」
炎を吐く妖怪王の乗ったおろち。
一反木綿の尻尾に火がつく。
一反木綿「アチチチチッチ……」
あわてて火を消す鬼太郎。
鬼太郎「いい加減にしろ！」
ババババババババ！　鬼太郎、髪の毛針！
妖怪王以外のおろちの目に命中！
しかし、堪えないおろち。
鬼太郎「なにっ!?」
不敵に笑う妖怪王。
妖怪王「フフフ……。お前ごときがこの妖怪王に太刀打ちできると思っているのか。

ハハハッ、どうだ怖いか鬼太郎。行くぞ！」
おろち、鬼太郎に突進！
目　玉「鬼太郎……」
一反木綿「まずいでごわす」
鬼太郎「……」
妖怪王「ハハハハハッ……」
迫るおろち。
その時！　妖怪バスが妖怪ハイウェイを抜け出て、そのままおろちに体当たり！
猫　娘「助けに来たわよ！　鬼太郎」
おろち「ギュワ――オ！」
不意打ちを食らって沈むおろち。
着地する妖怪バス。駆けつける一反木綿。
目　玉「おお、みんな駆けつけてくれたか」

38

おろち

おろちの上の妖怪王。バスを見やって、

妖怪王「ふんっ、雑魚め……」

39 バス

窓から首を出す砂かけ。目玉に向かって、

砂かけ「見上げ入道と怪しい妖怪が、大阪に現れてな」

ねずみ男「それが突然きえちまってよう」

子泣き「おいかけてきたらここに着いたのじゃ」

目　玉「追いかけてきたらじゃと」

目玉、妖怪王を見やる。

40 おろち

妖怪王、杖を天にかざす。妖気！

妖怪王「そうだ。ワシのもとに集まったのだ。……皆のもの！」

ブウン！　鬼太郎の周りを、がしゃ髑髏、ダイダラボッチ、見上げ入道

が取り囲む。

鬼太郎「なに!?」

目　玉「そうか、これは総て奴の仕業か」

妖怪王「どうする……鬼太郎？」

ダイダラボッチ、鬼太郎に向かう。

ちょうど妖怪バスの上。

あわててバスに乗り込み逃げる４人。

妖怪王「鬼太郎。お終いだな……」

鬼太郎「父さん」

目　玉「鬼太郎。ここはとりあえず逃げるしかなさそうじゃ」

鬼太郎「しかし、このままでは街が……」

襲いかかってくる見上げ入道。

逃げる一反木綿。その先にダイダラボッチ。危なくぶつかるところ。

鬼太郎「リモコン下駄！」

下駄を繰り出すが、下駄はすり抜ける。

鬼太郎「なにっ!?」

妖怪王「ハハハハ、こいつらは、ワシの妖力で生み出しているのだ。お前の攻撃は

　　すべて通じない。……しかし、こちらからの攻撃は通じるぞ」

　がしゃ髑髏の振り上げた手が一反木綿に命中！　バランスを崩し落ちていく。

　それをダイダラボッチが蹴り上げる。

鬼太郎「グワ――ッ！」

　そこに、再び現れたおろちが火炎攻撃。

妖怪王「グワッハッハッハッ！」

　勝ち誇る妖怪王……だが、突然苦しみ出す。

妖怪王「ウググググ……。グワアアァ……。苦しい……。体が焼ける……」

（回想シーン）

――老婆「その痛みは、針の山よりも恐ろしいぞえ……。その苦しみは灼熱の地獄の炎に焼かれるより深いぞえ……」

妖怪王「くそう、妖気が強すぎる。自分の妖気が自分を苦しめている……。まだこの体に十分なじんでおらんのか。グワーッ」

　妖怪王の苦しみの向こうで、がしゃ髑髏たちが消える。

鬼太郎「……」

41

臨海地区・地上

妖怪王。苦しそう。朱の盆駆けつける。

朱の盆「ぬらりひょんさまぁ。大丈夫ですか」

ぬらり「妖怪王さまと呼べ……グワワアァッ」

鬼太郎降りてくる。

鬼太郎「ぬらりひょん。お前、いったい……」

妖怪王「……ふん、鬼太郎め、運のいい奴。あと少しだったのに……」

よろける妖怪王。支える朱の盆。

妖怪王「しかし、今度こそ終わりだ」

妖怪王の妖気が増すと、手の中に封印の鏡（4分の1）がオーラ光と共に浮かび上がってくる。

目　玉「ぬらりひょん。まさかお前、あの邪悪の源と言われるあの島を復活……」

妖怪王「そうだ目玉の親父。ワシは、あらゆる苦痛を乗り越えて妖怪王となった。妖怪島を復活させるためにな！」

目　玉「そうか。わかったぞ鬼太郎、やつは邪悪の島、妖怪島の封印を解こうとしているのじゃ」

鬼太郎「なんだって！　ぬらりひょん！」
妖怪王「妖怪王だと言っておるだろうが。良いか鬼太郎、今日はお前の最後、いや
　この世の最後の日になる……。そして私はこの世のすべてを支配するのだ」
　妖怪王が円盤のかけらを手に天にかざすと、円盤のかけらを持ったヨナ
　ルデパズトーリとウーストレルとポルターガイストが現れる。
ヨナル「ケケケケケケ……」
　４つのかけらが自ら宙に浮かび、一つに集まろうとする。
妖怪王「フフフ……。これが何か知っておろう目玉の親父」
目　玉「妖怪島の封印の鏡……いかん！　あの封印の鏡を一つにしたら、妖怪島が
　出現してしまう。鬼太郎！」
妖怪王「そうだ、お前たちも幸せに思うが良い。妖怪島が出現する瞬間を目にする
　ことができるのだからな」
　鬼太郎、酔いしれている妖怪王に気づかれないように、リモコン下駄を…
　…。
鬼太郎「行け！　リモコン下駄！」
　飛び掛かるリモコン下駄！
妖怪王「なにっ!?」

避けようとしてバランスを崩す妖怪王……。
しかし、そこに割り込んでくる朱の盆。
バッコーン！　朱の盆にぶちあたる下駄。
朱の盆「痛いよう……ぬらりひょんさまぁ」
妖怪王「でかしたぞ朱の盆」
そして、4つのかけらは1つになる。
妖怪王、勝ち誇った会心の笑顔！
封印は輝きだし、巨大な妖気を放ちだす。
妖気は天まで貫いていく。
ドドドドドドドッ、空にカミナリ。
次の瞬間、妖気は天から東京湾に飛び込んでくる。東京湾は不気味な光に包まれ、やがて静かになる。
固唾を呑んで見つめる鬼太郎たち。
砂かけ、子泣き、ねずみ男、猫娘駆けつける。猫娘、東京湾を指さし、
猫　娘「何よアレ！」

42　東京湾・夜

不気味な光の中心から、巨大な波を伴って島が浮かび上がってくる。
島は、マグマを流し、マグマは海に入り水蒸気をあげている。水蒸気は
全体像を覆い隠し、島は煙に包まれていく。

妖怪王「ハハハハハハ……」
目玉（絶望）「妖怪島じゃ……」
砂かけ「妖怪島?!」
子泣き「あの、すべての災いを生み出す……」
鬼太郎「ぬらりひょん！　止めるんだ。今直ぐ妖怪島をもとに戻せ！」
妖怪王、お台場の人口浜に立って、
妖怪王「鬼太郎……。何をふざけたことを。それにだ……」
妖怪王、目玉に向かってニヤリ。
妖怪王「これは、妖怪島ごときではない」
目　玉「なんじゃと」
妖怪王「妖怪島はあくまでもワシの世界制覇の第一歩にすぎんのだよ」
鬼太郎「……」
妖怪王「見せてやろう。ワシの計画の全貌を」

妖怪王、海に振り返って杖を振り上げる。

妖怪王「姿を見せろ！　妖魔城!!」

鬼太郎「妖魔城!?」

ザザザザ―――ン！　海が割れていく。

妖怪王は、振り返ると、宙に浮き上がりすーっと割れた海に動いていく。

朱の盆、現れた海の底を走っていく。

ワカメでスッテーン。反動でタコにぶつかり、墨をはかれる。

朱の盆を追うかのように海が閉じていく。

妖怪王「ハハハハハハ、どうだ鬼太郎……」

目　玉「鬼太郎あれを見ろ」

目玉が指さす先、妖怪島の煙が晴れる。

そして、妖怪城は姿をあらわしてくる……。

ねずみ男「おいおいおいおい、冗談じゃねえよ。なんだいあれは？」

猫　娘「おばば、ぬらりひょんってあんな力持っていたの？」

砂かけ「ただの意地悪な爺さんと思っておったがのう……」

妖魔城、高さ300メートルはあろうかという全容を見せてくる。

上部は、雲に隠れている。

